

④ 球磨川左岸地区 復興まちづくり計画

対象地域 西間下町、矢黒町、下戸越町

球磨川左岸地区は、球磨川と支流、急傾斜地に挟まれており、浸水と土砂災害の危険性があるため、「早めの避難」の徹底や「安全な避難」を実現するために必要となる取組を中心に、復興まちづくりを進めます。

（１）地区の復興まちづくりに向けた主な課題

取組の柱① 被災者のくらし再建とコミュニティの再生

住まいの再建

各戸の安全性の向上

○今後の災害リスクに備え、住まいの安全性を高める取組が必要です。

取組の柱③ 災害に負けないまちづくり

避難対策

安全な避難ルートの確保

○土砂災害や浸水の危険性がある道路が多く、道幅も狭いため避難路が脆弱であり、安全な避難ルートの確保が必要です。

地区別懇談会での主な意見

- ・ 矢黒の集落内は道が低く、早い時間帯に浸水して通行できなくなるため、孤立化しやすい。避難所（西瀬小学校）、自主避難所（矢黒公民館）や避難場所になる高台（ま心周辺）へ行くルートが浸水しやすい。
- ・ 消防団（第4分団第2部）の出動ルートに水が流れ込みやすく、沿道の竹などが倒れ込んだ場合は出動の妨げになるため、それを取り除く活動が必要。

近所の避難体制の構築（「近助」）

- 消防団や町内会役員には人手もできることも限りがあり、隣近所での助け合いの体制強化が必要です。
- 避難情報の周知等には、デジタルツールを使えない方への支援体制の強化が必要です。
- 支援体制の強化には、避難行動要支援者名簿の効果的な活用が考えられます。

消防団の安全確保

- 消防団（第4分団第2部）の詰所が川沿いにあり、浸水被害等の危険性があることから、消防団の安全確保が必要です。

□緊急時に避難ができる場所の確保

- 指定緊急避難場所まで行けない場合や緊急に避難を要する場合等に、命を守る避難場所の確保が必要です。
- スムーズに安全な避難を完了できるよう、避難場所、避難所のキャパシティや移動を踏まえた避難を実現することが必要です。

□ペットの同行避難への対応

- 避難所におけるペットの受け入れ体制を検討しておく必要があります。

地区別懇談会での主な意見

- ・ペットと同行避難できないことを理由に、避難を躊躇するケースがある。

治水・土砂災害対策

□浸水リスクと土砂災害リスクへの対応

- 球磨川左岸地区は、球磨川と急傾斜地に挟まれ、球磨川の氾濫以外に、山から支川や農業用水路に流れ込んだ水があふれて浸水する他、土砂災害の危険性もあり、浸水リスクと土砂災害リスクの双方に対応していく必要があります。

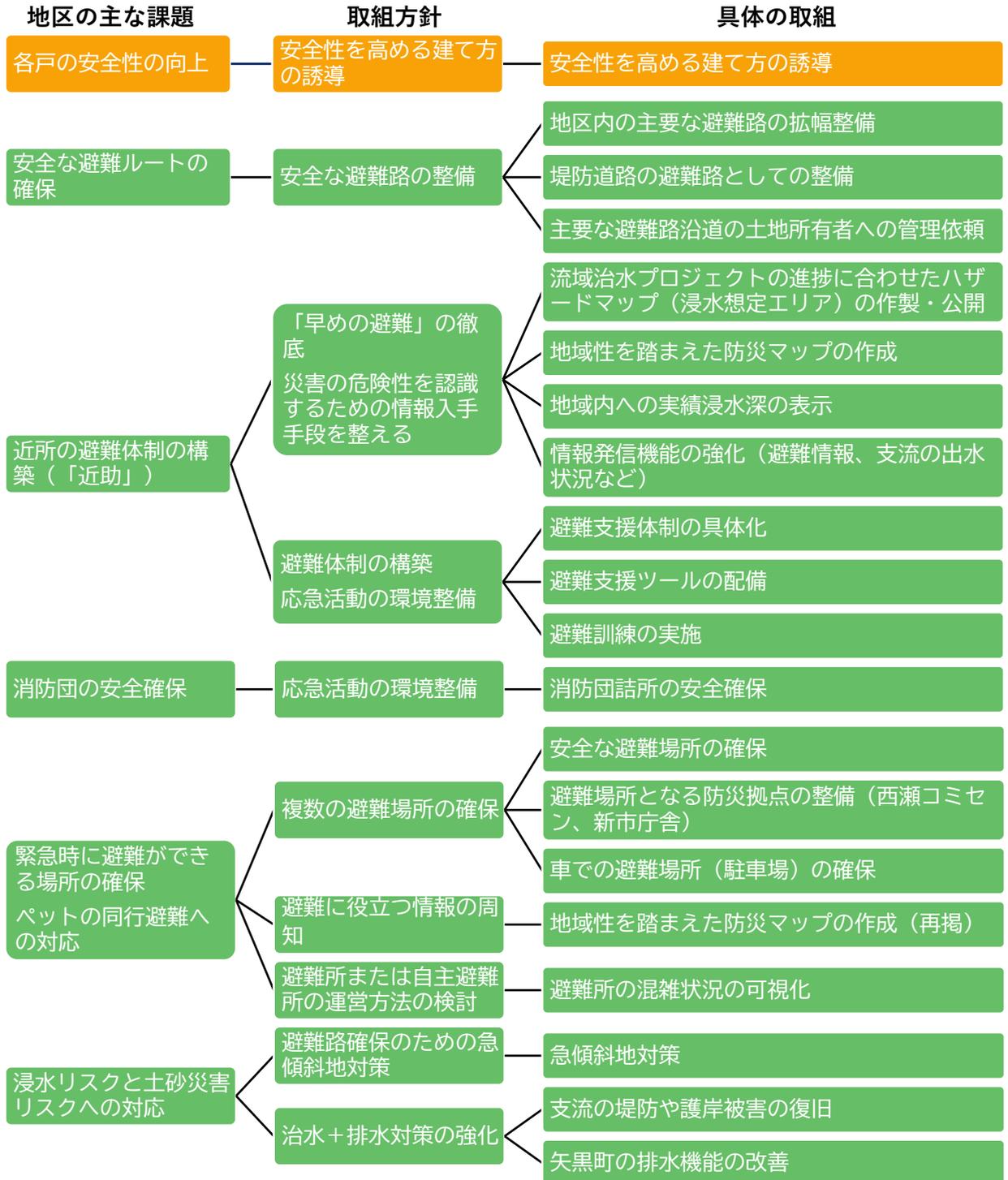
地区別懇談会での主な意見

- ・矢黒第二排水樋管周辺など地区内に浸水しやすい地点があり、周辺の低い道路は早い時間帯から通行不能になる。

（２）課題解決のための取組

【復興まちづくりの目標】

地域を見つめ直し、
住民・地域・関係機関が相互に様々なコミュニケーションを通して行う
災害に強いまちづくり



取組の柱① 被災者のくらし再建とコミュニティの再生

住まいの再建

取組方針1：安全性を高める建て方の誘導

住まいの再建や新築に際し、安全性の高い建て方を促進します。

具体の取組

□安全性を高める建て方の誘導

（例）建物1階のピロティ化、浸水深以上の居室の確保、建物構造の耐水化、住宅再建に係る各種スキームの説明会の開催

取組の柱③ 災害に負けないまちづくり

避難対策

取組方針2：安全な避難路の整備

土砂災害の危険区域や浸水しやすい箇所及び避難先（場所、キャパシティ等）、救助活動のしやすさ等を踏まえた避難路の整備を行います。

具体の取組

□地区内の主要な避難路の拡幅整備

・矢黒第二排水樋管の通る浸水しやすい箇所の嵩上げ（堤防高に擦り付け）。

□堤防道路の避難路としての整備

・ガードレールの設置及び、河川管理道路区間の直線での通り抜け整備。（道路の整備と併せて、車のスピードを抑える対策も実施）

□主要な避難路沿道の土地所有者への管理依頼

取組方針3：「早めの避難」の徹底

避難できる道や方法がある時間帯の「早めの避難」を徹底します。

取組方針4：災害の危険性を認識するための情報入手手段を整える

油断を防ぐため、平時から地域の災害リスクを知り、降雨時には周辺の状況や避難に関する情報などを入手することができる手段を用意します。情報の入手・共有に当たっては、デジタルツールの活用の他、高齢者等への情報共有方法に配慮します。

具体の取組

- 流域治水プロジェクトの進捗に合わせたハザードマップ（浸水想定エリア）の作製・公開**
- 地域性を踏まえた防災マップの作成**
 - ・ハザードマップだけでは読み取れない危険性も含めた地域が主体となった防災マップの作成。
 - ・避難の必要性を判断する地域独自の「小さなきっかけ」等も掲載する。
- 地域内への実績浸水深の表示**
 - ・令和2年7月の痕跡水位を電柱等に掲示。
- 情報発信機能の強化（避難情報、支流の出水状況など）**
 - ・各世帯への防災ラジオの配布（市より、令和3年6月から順次配布）。
 - ・支流の出水状況をきめ細かく情報発信する機能の強化。
 - 土砂詰まりしやすく、浸水しやすい地点への浸水検知センサーの設置（周辺住民へ情報共有できるシステム）。
 - 胸川上流へのライブカメラの設置。

取組方針5：避難体制の構築

班などの小さな単位で避難する体制づくりや、町内会・自主防災組織・消防団との連絡体制の構築を行います。

具体の取組

- 避難支援体制の具体化**
 - ・要支援者の支援体制の分担と、分担に基づく訓練の実施。
- 避難支援ツールの配備**
 - （例）防災リヤカー（西間下町）
- 避難訓練の実施**
 - ・実際に起こり得る状況を想定した、効果的な避難訓練の実施。

取組方針6：応急活動の環境整備

消防団が安全に活動できるよう環境整備を行います。

具体の取組

□消防団詰所の安全確保

- ・消防団（第4分団第2部）詰所の移転検討。

取組方針7：複数の避難場所の確保

指定緊急避難場所の他、民間の施設や私有地も含め、水害時の一時避難が可能な避難場所を複数確保します。

具体の取組

□安全な避難場所の確保

(案)【西間下町】西間下町公民館、新市庁舎、県振興局 等

【矢黒町】矢黒町公民館、ま心周辺の高台、蓬莱配水池周辺 等

【下戸越町】西瀬団地、市営三日原団地 等

※避難する時間帯やルート、移動手段等を考慮して判断する必要がある。

- ・ま心の高台に上がる道路が浸水した場合に備え、高台西側の里道（山道で滑りやすい）を整備。
- ・指定の避難所以外で垂直避難ができそうな施設の管理者への相談。
- ・隣接する町同士で連携する避難体制の構築
- ・ペットの同行避難の対応

□避難場所となる防災拠点の整備（西瀬コミセン、新市庁舎）

- ・西瀬コミュニティセンターを移転し、防災まちづくり拠点の機能を持つ施設として整備する。

□車での避難場所（駐車場）の確保

(案)県振興局、新市庁舎周辺（弓道場や社会福祉協議会付近）、高台の民地 等

取組方針8：避難に役立つ情報の周知

どこに避難するべきか判断できるよう、避難場所・避難所の位置以外の情報についても事前に共有します。

具体の取組

□地域性を踏まえた防災マップの作成（再掲）

- ・避難先を判断する際に役立つ情報を防災マップに掲載する。

(例) 避難所のキャパシティ、駐車場、駐車可能台数、トイレの有無 等

取組方針 9：避難所または自主避難所の運営方法の検討

ペットの同行避難の他、避難や避難生活に関する地域のニーズに備え、事前の検討を行います。また、避難の時期、ルート、場所、運営面など避難の方法を具体化し、車での避難ができる場所（駐車場）の確保や、避難先が一箇所に集中しないよう、分散させる工夫にも取り組みます。

具体の取組

避難所の混雑状況の可視化

- ・スマートフォンで避難所の空き状況を確認できるアプリの導入。

治水・土砂災害対策

取組方針 10：避難路確保のための急傾斜地対策

避難路の安全性を上げるため、急傾斜地対策を行います。

具体の取組

急傾斜地対策

取組方針 11：治水＋排水対策の強化

矢黒第二排水樋管や矢黒町内の排水機能を強化し、周辺の道路を通行できる時間を確保します。

具体の取組

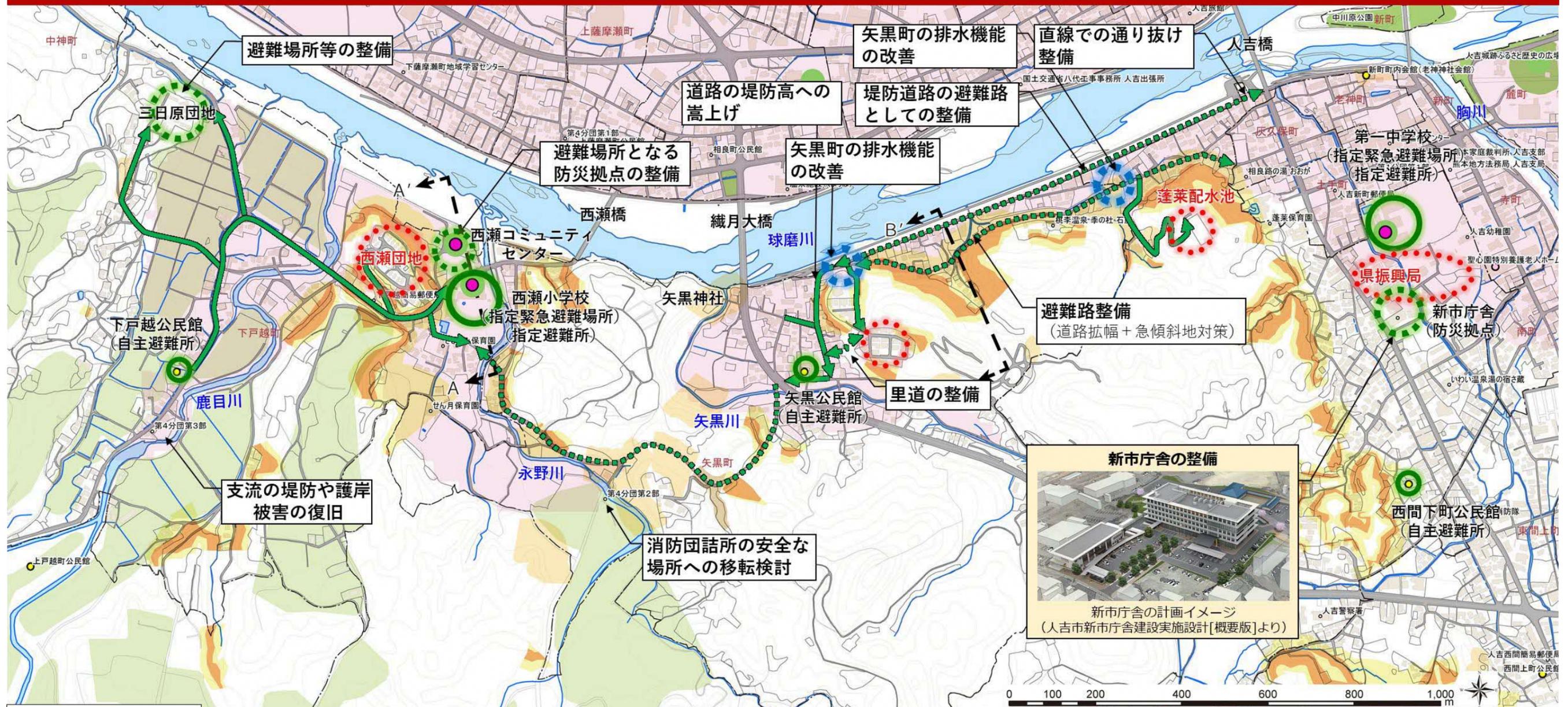
支流の堤防や護岸被害の復旧

※令和3年度中に工事着手予定

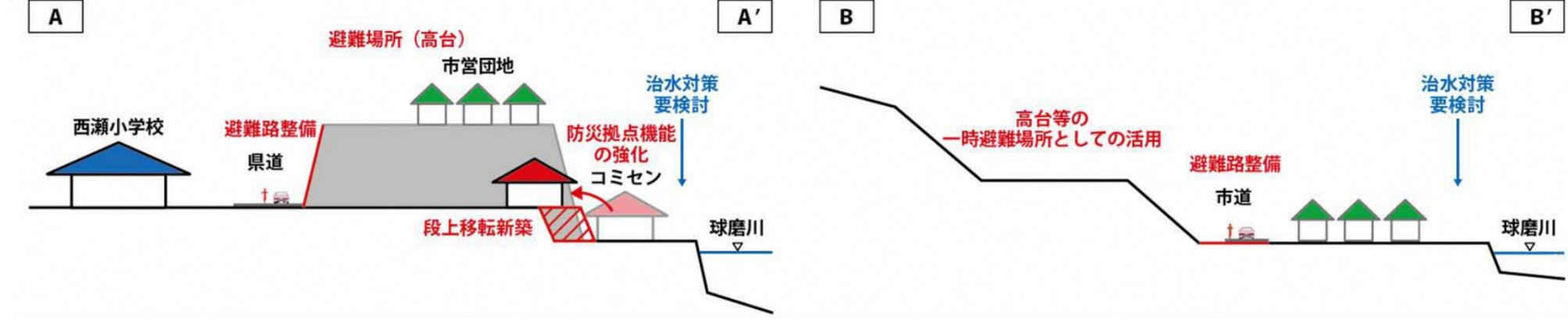
矢黒町の排水機能の改善

- ・矢黒町内の排水路や矢黒第二排水樋管等を改善し、排水機能を強化する。

球磨川左岸地区 復興まちづくり計画【地区整備方針・避難ルート図】



断面イメージ図



凡例	
→ (緑)	避難路(現況)
→ (点線)	避難路※
○ (緑)	避難場所、避難所
○ (点線)	避難場所、避難所※
● (赤)	安全な避難場所
○ (赤)	※要整備
○ (緑)	指定緊急避難場所
○ (赤)	指定避難所
○ (黄)	自主避難所
○ (白)	福祉避難所
■ (赤)	土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)
■ (黄)	土砂災害警戒区域(イエローゾーン)
■ (白)	地すべり調査予定
■ (黄)	急傾斜地調査予定
■ (白)	土石流調査予定
■ (赤)	浸水想定区域
■ (白)	想定最大規模(L2)
■ (緑)	農用地区域

